

公務員試験 ジャーナル

第42巻 第5号
2021年5月7日発行

特集
①

作文試験ガイドンス

作文試験のねらい

作文試験のねらいは、教養（基礎能力）試験では見ることのできない能力と適性をみることにある。文章からは、教養（基礎能力）試験の択一式では見えてこない受験者の考え方や意欲、日常生活などがわかる。人物重視の採用傾向から、面接試験とともに受験者の思考が表れる作文試験の重要性も増しているの、しっかりとした作文対策指導が必要といえる。

作文試験の評価方法

作文試験の評価は、一般に複数の採点官によって行われる。公務員試験の場合、3人の採点官がA、B、Cの段階評価で採点し、Cが2つ以上つくると不合格とするといった方法や、評価を点数化し、他の試験と合計した点数で合否を決定するといった方法などが採られている。

採点側のチェックポイントとしては、

- ・ 出題テーマに沿った内容か
- ・ 論旨に一貫性があるか
- ・ 表現はわかりやすいか
- ・ 文法は正しいか
- ・ 誤字・脱字はないか
- ・ 丁寧な字で書かれているか
- ・ 制限字数の8割程度は書かれているかなどが挙げられる。

作文試験は、その人の物の見方や考え方といった個性をみるものとはいえ、読みにくい字や間違いだらけの文章では採点官の読む気力がなくなってしまう。したがって、まずは技術的な面に重点を置いた作文添削指導から始めたい。

公務員試験の作文課題

就職試験の一環としての作文試験と考えれば、民間企業と公務員とでは、「課題」や「評価基準」についてあまり大きな違いは見られない。

作文の課題については、一般的に次のようなものが出題されている（資料1参照）。

【自分に関するテーマ】 受験者がどのような人間性を持っているか、自分を客観的にとらえているかなどをみる。最頻出の課題である。

【社会的・時事的テーマ】 社会全般、時事問題などへの興味・関心があるか、一般常識を備えているか、偏った考え方をしていないか、問題意識を持ち自分の意見があるかなどを確認する。

資料1 ● 2020年度 高卒程度公務員試験作文課題例

試験名	課題	分	字数
国家一般職高卒 税務職員	これまでの自分自身の経験を踏まえて、「仕事をする」ということについて思うこと	50	600
刑務官	ルールの必要性について	50	600
入国警備官	私が人と接する上で大切にしていること	50	600
裁判所 一般職高卒	「学ぶ」ということ	50	
茨城県	私がこれまでの経験のなかで熱意をもって取り組んだこととそこから学んだこと	60	800
特別区	私が地域に対してできること	80	600~ 1,000
千葉県鴨川市	私の価値観が変わった出来事	60	800
沖縄県 豊見城市	これだけは誰にも負けないと自慢できること	60	800
茨城県 警察官	警察官採用試験に合格した未来の自分へメッセージを書きなさい。	60	500~ 800

【社会人・公務員についてのテーマ】社会人・公務員になるにあたって心構えができているか、公務員という仕事への理解ができているか、仕事に対する姿勢などをみる。

【将来・抱負・夢などに関するテーマ】将来の目標に向かって前向きに努力をしているか、自分の目指す将来像が明確になっているかなどをみる。

【抽象的なテーマ】抽象的な課題に対する理解力をみる。基本的には何を書いても自由だが、自分の体験などから何を引き出し、導くのかをみる。自由な発想を広げられるか、自分らしさが出せるかもポイントになる。

作文試験の制限時間は45分から120分までとさまざまだが、主流は50～60分である。字数については600～800字が多いものの、試験によってまちまちである。あらかじめ志望する職種や自治体の字数・制限時間を確認し、それらを意識したトレーニングを課すことが効果的である。

作文対策指導

作文に対して苦手意識を持っている生徒も少なくないだろうが、作文対策指導を始めるにあたっては、出題される課題は「だれでも書ける」ものであり、また作文は繰り返し書くことで確実に上達するということを強調してほしい。

●作文完成までの手順（基本）

試験という緊張する場面で制限時間内にまとまった文章を書くことは慣れないと難しい。一見繁雑に思えるが、次のような手順を踏むことによって、時間切れや文章量の過不足に陥らずに済むだろう。なお、括弧内は試験時間60分の場合の時間配分の目安である。

①ねらいを捉える

出題の意図をよく考え、理解する。

②題材を決める（①②合わせて10分）

課題をいろいろな角度から考えて思いついたことをメモし、その中から中心となる事柄を絞る。

③構成を考える（5分）

3段構成（序論・本論・結論）・4段構成（起・承・転・結）など、あらすじの組み立てと各パー

トの大まかな文章量を決める。

④作文する（30分）

文章をつづる。

⑤推敲する（15分）

文章を読み返して修正する。

●作文添削のポイント

他人に読んでもらい添削・評価されることで、よりわかりやすい作文が書けるようになる。試験では見ず知らずの採点官が読むことを考えると、生徒と直接面識のない先生に添削をお願いできれば、より客観的な視点で指導してもらえるのではないだろうか。

生徒の作文を添削するにあたっては、次のような点に注意して指導してほしい。

①文字・字数

丁寧な読みやすい字で書かれているか、敬体が常体のいずれかに統一されているか、過不足ない字数かなどは初歩的な事柄ゆえ、できていなければ減点となる。また、採点現場では複数の採点官が読むために、答案をコピーすることが多い。極端に薄い字だとコピーがかすれてしまっただけで読めないことがあるので、濃い鉛筆を使うなどしてある程度濃い字を書くよう指導したい。

②表記

誤字・脱字、表現の誤り、文法上の誤りなど、明白な間違いは減点の対象となるので、よく読み返すよう指導する。

③構成

採点官は多くの似たような答案を読んでいる。したがって、作文の基礎を徹底するとともに表現力を磨き、内容自体に興味・関心を持ってもらうようにしたい。

実際の添削は、いくつかのチェックポイントをあらかじめ設定して段階的に採点し、直すべきところは細かく指示することが大切である。指導の目安として、小社『公務員模擬試験』の付録作文を是非活用してほしい。また、指導の際は、前回の作文より少しでも進歩した内容であれば具体的に褒めるなどして、生徒に自信を持たせていくことが、苦手意識を取り除く有効な手段といえる。

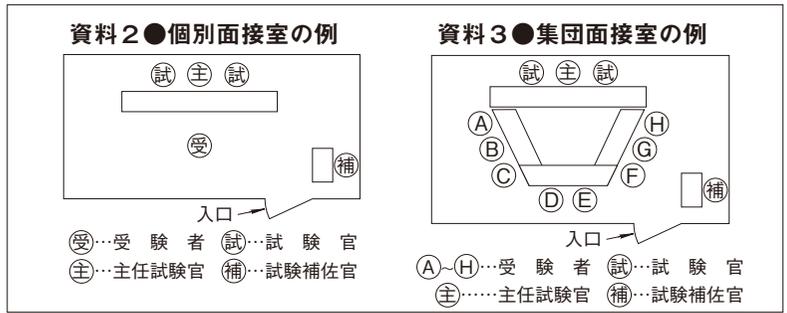
特集 ②

面接試験ガイド

面接試験は、一次試験に合格した者のみを対象

に、社会人・公務員としての適否を人物的側面か

らみようとするものである。合格者はすべての試験を総合的に判断して決定しているものの、最近では民間企業と同じように面接試験の占めるウェイトは高まりつつあり、しっかり人物を評価する傾向が強まっている。面接試験は合否の判定のみを行うところが多いが、国家一般職高卒や刑務官のように配点比率を決め、得点化している試験もある。



力、物事の考え方などがみられる。

面接試験の形式

面接試験には、個別面接と集団面接、そのほか、地方試験の一部で行われている集団討論がある。
【国家一般職・国家専門職・特別職】 個別面接。
【地方高卒】 自治体によって異なるが、ほとんどが個別面接を行う。加えて、集団面接や集団討論を組み合わせて行うところもある。

●個別面接

試験官は3人程度、時間は15～30分程度が一般的である（資料2参照）。

面接の進め方は、面接官が一人ずつ順に質問していくパターンと、質問をする試験官と観察してメモをとる試験官というように役割分担されているパターンとがある。内容は、受験者の緊張をほぐすための簡単な質問から始まり、志望動機などの質疑応答が繰り返され、最後に補足的な質問がされて終わるといのが一般的である。

●集団面接

面接時間は45分～70分程度、一組5～8名くらいの受験者に対し試験官3人という形式が多い（資料3参照）。面接試験中、受験者は便宜的に仮称で呼ばれるのが一般的である。

まずは自己紹介から始まり、次に学校生活や社会問題など受験者が共通に興味を持つような話題について、一人ずつ順番に意見を求めたり、あるいは挙手によって答えさせたりする。さまざまな質疑応答が展開された後、指名によって補足的な質問がされる場合がある。

●集団討論

高卒程度試験で実施するところは非常に少ない。5～7名程度の受験者グループに1つのテーマが与えられ、40～45分程度議論する。討論場面での行動や発言を通じて受験者の社会性や指導

面接の内容

質問の内容は、受験する職種や自治体、個々の受験者によって異なるが、主な質問としては次のようなものが挙げられる。

- ①志望動機
- ②学校生活
- ③交友関係
- ④性格・趣味・スポーツ
- ⑤時事的な事柄
- ⑥採用後の希望部署や抱負

なぜ公務員を志望するのか、なぜその職種を志望するのかなどについて深く考え、自分の考えをしっかりと固めておきたい。特に、志望する職種・自治体については具体的な仕事内容まで事前に調べておくこと。それには、新聞を毎日読むことが役立つ。一面記事を中心に、政治欄・経済欄にも目を通し、志望する官公庁に関する記事は必ずチェックしておきたい。小さな囲み記事には意外

採用現場からヒトコト

「自分らしさ」を伝えると言っても、志望動機などはどうしても画一的になりがち。その辺りは面接官もわかっている。逆に言えば、その画一的な答えさえ出ないようでは準備不足が否めない。また、ありがちな「高校生活で頑張ったこと」「失敗から学んだこと」といった質問は、経験そのものよりも**その経験を通じた対人関係**、つまりその経験を通してどのように他人と関わってきたか、どのように他人と協力して挫折を乗り越えてきたかを知る意図がある。したがって、盛り込むエピソードはなるべく最近の、できれば継続性のある事柄のほうが説得力がある。

とその官公庁の政策について書かれていることがあるからだ。特に、地方公務員志望者は全国紙よりも地方紙を読むことをお勧めする。また、官公庁のホームページには、重点的に取り組んでいる政策や直面している問題点なども掲載されているので、合わせてチェックしたい。

さらに、自己分析をしっかり行い、マニュアル通りの答えではなく、自分の考えを自分の言葉で答えられるようにしておくことが大切である。

面接対策指導

●面接官から見た「採りたい人」とは

公務員に限らず、就職試験における「採りたい人」とは、一言で言えば一緒に働いてみたい人である。同僚・部下としてスムーズに気持ちよく仕事を進められる人材が求められるのだが、その観点は当然業種・職種によって異なる。

●面接指導のポイント

長年、公務員試験の面接を担当された方によると、公務員としてまず大切な資質は異世代コミュニケーションがとれることである。特に、高卒程度公務員採用試験での採用者は、役所における窓口業務に就くことが多い。窓口には老若男女さまざまな人が訪れる。彼らに対して丁寧かつわかりやすい説明ができることは、仕事を円滑に進めるための必須要件だ。また、国家公務員の場合、他の官庁や議院での説明・交渉も必要となる。異世代コミュニケーション能力は、受験者の親世代、場合によっては祖父母世代の人々に対して説明・説得をするためのベースとなるスキルである。

これを大前提として、高卒程度公務員に求められる資質を挙げると、

- ①日常業務をテキパキと進める事務処理能力
 - ②相手の要望や問題点を把握できる理解力
 - ③職場を明るくできる対人能力
 - ④メンタル面の強さと忍耐力
 - ⑤素直さ
- などがある。

これらは一朝一夕では到底身につかない。委員

会や部活動、地域活動に積極的に参加するなど、普段から意識して生活するよう指導してほしい。

また、やや技術的なことになるが、面接官は職種によって視点を変えて質問・評価していることを念頭に面接指導を行ってほしい。たとえば、事務系職種の場合、相手の立場・状況によって対応を変える柔軟性が求められる。一方、警察官・消防士などの公安系職種では、上司からの命令・規則を遵守する「堅さ」が評価される。よって、志望動機などに盛り込むエピソードも、職種に求められる資質をアピールできるようなものを選ぶように指導していただきたい。

採用現場からヒトコト

実際のところ、面接は第一印象で8～9割決まってしまう、そのイメージはだいたい3年ほど定着する。そのぐらい第一印象は大事なものだ。

身だしなみや話し方のクセについての注意点は民間就職の場合と変わらない。要は**仕事で接することになる国民・住民が見て、不快に思わない服装・ふるまいができるか**を面接官はチェックしている。

また、提出書類にも気を配ってほしい。面接の基礎資料となる面接カードはもちろん、受験申込書や受験票、官庁訪問の際のアンケートなども面接官はすべて目を通すので、面接前にある程度受験者のイメージが固まってしまう。書く内容はもちろん、**特集①**で挙げた作文執筆時のチェックポイントを提出書類記入の際にも念頭に置いておいてほしい。

そのほか、意外と気になるのが受験申込書や受験票に貼る写真だ。さすがにスナップ写真を切り取る人は少ないが、Tシャツやノースリーブでの写真を提出する受験生は一定数おり、その段階で「非常識な人」というレッテルが貼られてしまう。**提出書類から選考が始まっている**ことを肝に銘じてほしい。

『公務員試験ジャーナル』
バックナンバーについて

本年と前年の『公務員試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材 NAVI」でご覧いただけます。

高等学校のTOPページ(<https://www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/>)より、「活用情報」→「指導情報」をご覧ください。